

「事業名：飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」**東京大学(連携：明治大学、福島大学) 連携市町村：飯舘村****現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)****事業のポイント**

放射能汚染地というハンデを背負った飯舘村の復興には、単なる技術的な除染やインフラの物理的再建だけで終わらず、その先に新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の創設にチャレンジする若者の育成が肝要である。それを踏まえ、本事業では以下の要点を据える。

1. 農業現場に根差し、かつ最先端のICT技術を用いたスマート農業に関する教育研究を実施することで、飯舘村各地に根付いた復興知を携えた国際レベルの超学問領域的研究を醸成し、飯舘村における新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の発信基盤を構築する。
2. 将来世代を対象とした里山部を含む飯舘村全域を舞台とした復興知STEAMフィールド学習活動を展開し、村民との交流の中で震災直後から蓄積されてきた復興知を現場の課題解決と研究活動に展開する復興知FPBL(Field & Project Based Learning)を実践的に試みる。

人材育成目標

本事業では、飯舘村における農を中心とした生活の復興・拡大と復興知の将来世代への継承に資するため、下記を人材育成目標とする。

【小学－中学世代】飯舘村における農を中心とした生活の歴史と魅力、および民族知を認知し、浜通りの農業とその将来に興味を示す人材

【高校－大学世代】最先端のICT技術に関する知識を有し、農業現場の課題解決に資する実践や研究活動を行うことを目指す人材

【農業実践者世代】飯舘村各地に根付いた復興知とスマート農業の現場知を、実践する姿を示すと共に将来世代へ引継ぎ可能な人材

2025年度の活動内容**(1) 農を中心とした生活の復興と拡大のための研究プログラム(実地研究とラボ実験による多面的研究)**

里山部の再生と未利用地の利用再開に向けて、農村地域内の農業残差などを再利用した有機物循環に基づくリジェネラティブ農業の試みや、村内の木材を燃焼させて作った木炭の農業利用実験、土壌モニタリングや動物追い払いロボットなどICT技術を活用した農業実践、農山村における電波ネットワーク構築に資する調査を実施する。

(2) 復興知の将来世代継承と発展のための教育プログラム(現地体験と交流会およびワークショップの実施)

国内外の大学生を招聘し、現地における多様な村民との交流と、里山部も含めた村内全域を舞台とし、ICT技術を取り入れた村内フィールド学習ツアーの支援と実施を行う。また、村内生産物を媒体とした村のプロモーション活動の活性化や飯舘村との地域愛着を持つ関係人口醸成に資する価値共創地域づくりプロジェクトを実施する。



将来世代へのアプローチと復興教育



当初の地表面を保存する土壌博物館

取り組みによって得られる成果

- ・飯舘村における最先端のICT技術を活用したスマート農業の実践と研究の発信。
- ・幅広い将来世代と飯舘村民との交流と協働作業による復興知の伝承と伝播。
- ・村内里山部を舞台としたICT技術を取り入れた村内フィールド学習ツアー支援。



新規就農者との協働研究と知識伝承



里山部の再生と資源利活用を行う価値共創